

幼小中で共通の目標を設定し、その実現を目指して、
学校文化の壁・校種の壁を越えて教職員がつながる。

教育力の向上につながる。

私たち（村立学校の教職員、村民）の手で
○郷土を知り、郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、郷土を語れる子ども
○夢に向かって、自らの生き方を切り開く意欲あるたくましい子どもを
育てたい。

- (学校教育) → 幼小中の12年間を見通した教育を確立する。
(小中の全教職員に兼務辞令を発令)
- (地域教育) → 明日香の子どもは、村民が責任を持つ。
- (家庭教育) → 学校、家庭、地域が一体で、子どもを育てる。

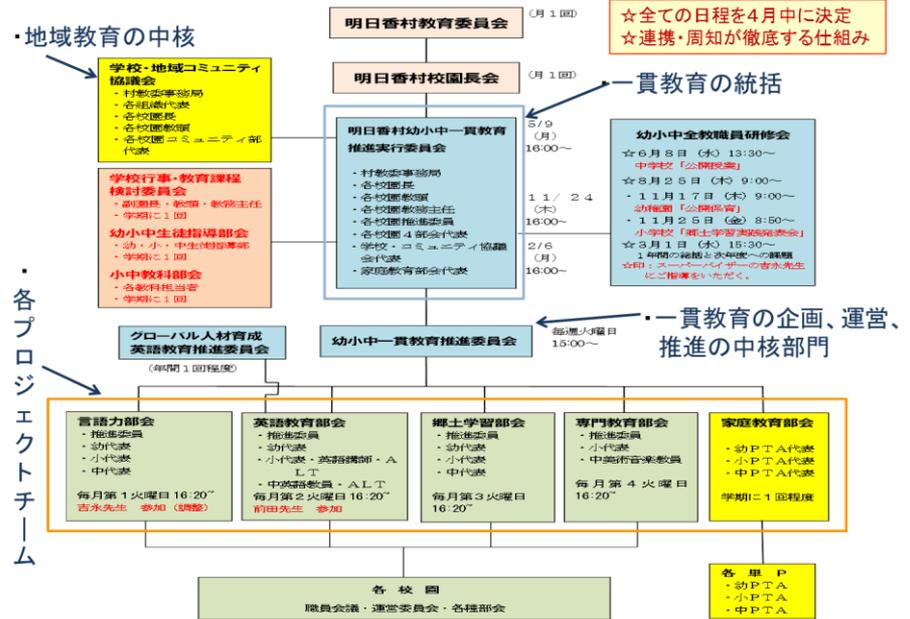
【幼小中12年間をつなぐ教育】

- 教員がつなぐ
 - ・中学校教員が小学校へ(理科・音楽・図工)
 - ・小学校教員が中学校へ(家庭科)
- 英語でつなぐ
 - ・幼稚園の英語あそび
 - ・小学校担任による授業
 - ・中学校英語の改善
- 郷土学習でつなぐ
 - ・郷土明日香を誇りに
 - ・郷土明日香を語れる子の育成
- 中身でつなぐ
 - ・学校行事・教育課程検討委員会
 - ・生徒指導部会
 - ・小中教科部会

- 基礎的な言語力の育成
「聞く、話す、読む、書く」
の力を確実に身に付ける。
- 基本的な生活習慣と
学習規律の確立
 - ・チャイム着席
 - ・学習準備
 - ・片付け、整理整頓
 - ・正しい姿勢
 - ・聞き方・話し方
 - ・「はい」の返事
 - ・あいさつ
 - ☆箸と鉛筆の持ち方

小学校教室ロッカーの様子

平成28年度 幼小中一貫教育推進組織図 【明日香村】



★全ての日程を4月中に決定
★連携・周知が徹底する仕組み

一貫教育の統括

幼小中全教職員研修会
☆6月8日(水) 13:30～
中津校「公民館」
☆8月25日(水) 9:00～
・11月17日(水) 9:00～
幼中校「公民館」
・11月25日(金) 8:50～
小学校「郷土学習実践発表会」
☆3月1日(水) 18:30～
1年間の総括と次年度への課題
☆印：スティーブ・レイザーの吉永先生
にご指導を仰ぐ。

一貫教育の企画、運営、
推進の中核部門

明日香村幼小中一貫教育構想 「第2ステージ」(平成28～30年)

平成29年4月



明日香村教育(明日香村モデル)の創造を目指して
— 幼小中一貫教育を基盤として —

小学校職員研修 「英語の授業について」

- ・全担任が、年1回公開授業
- ・授業モデル体験研修
- ・クラスルームイングリッシュ
- ・絵本と歌の活用
- ・アクティビティ
- ・ふるさと英語
- ・アルファベットの導入
- ・フォニックス
- ・スモールトーク



先生方の感想

- ・授業の流れを示してくれているので、スムーズに授業ができた。
- ・HRTが一生懸命クラスルームイングリッシュを話す姿を見せることに意味があった。
- ・生徒の立場でモデル授業を受けてみて、CAN-DOチェックでシールがもらえる喜びが実感できた。

英語教育の時間割に関する取組事例 【45分授業を年間70コマ実施】奈良県明日香小学校

取組の内容

- >対象:5・6年
- >年間70コマを確保するための方策:
 - ・平成21年2月、教育課程特例校の指定を受け、平成21年度より実施する。
 - ・5、6年は「外国語活動」の授業時数35コマに、「英会話科」を35コマを上乗せする。
 - ・拠点校指定により、「英語科」70コマとする。
- >指導者:学級担任とALT

成果・効果

- ・年間指導計画に発信型学習として英語で明日香村を紹介する学習を位置づけることができた。
- ・海外からの訪問客が多い中、英語での学習交流を進めることができた。
- ・授業を標準化(パターン化)することが可能となり、フォニックスやライティング、スモールトークを1時間の授業に取り入れることができた。



課題

- ・35コマは“Hi friends!”を中心に学習を進めることができるが、残りの35コマについてはオリジナルな学習を準備しなければならないため、教材研究に追われている。

5・6年の時間割表

(○:授業実施)

5・6年の時間割表					平成28年度 6年2組の時間割表					
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
1	○	○	○	○	○	1	あ	算	国	理
2	○	○	○	○	○	2	国	理	英	算
3	○	○	○	○	○	3	算	家	算	算
4	○	○	○	○	○	4	社	社	社	体
5	○	○	○	○	○	5	国	音	道	国
6	○	○	○	○	○	6	英	国	理	学

- ◇標準授業時数980時間に35時間上乗せし、1015時間としている。
- ◇特例校として総合的な学習の時間を「あすか科」とする。
- ◇水曜日6校時目について
 - ・クラブ活動は、学期に2コマを充てる。
 - ・委員会活動は、学期に1コマを充てるとともに、毎月金曜日6校時終了後、15分間の「ショート委員会活動」を設ける。
 - ・職員会議、研修は「クラブ活動・委員会活動」のない日を充てる。

本校、平成28年度 教育課程における授業時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
あすか科			70	70	70	70
英語科			35	35	70	70

- ◇3、4年は35時間上乗せする。拠点校指定により、「英語科」35時間とする。

若手教員のための教師塾 『明日香庠序(しょうじょ)』

奈良時代の漢詩集「懐風藻」の序文に、天智天皇の御代に初めて官制の庠序(学校)を開いたとの記述があることから、「教師塾 明日香庠序」と名付けた。

平成24年度から始めた。当初は、村内の学校に勤務しながら採用試験を目指す講師を対象に開いた。その後、受講希望者も増えたので、広く門戸を開いて、採用試験を目指す講師だけでなく、大学生や現職の教諭も含めて、若い世代の教員が共に学び合う場として続けてきている。

毎月第1・第3金曜日の夜7時から9時まで
毎回講師として、県内で活躍しておられるベテランの先生方を招聘
(※無償でお願いしている)

採用試験を目指す者のために、夏に特別講座も開講

今後の課題として

- 学校文化の壁・校種の壁をなくすには?
- 12年間を見通してつなぐ教育を構築するには?
 - ・幼小中の教育課程 ⇨ 3・6・3制 から 3・4・3・2制へ

小5・6と中1をどのようにつなぐか

小中教員の相互交流による専門教育・教科担当制の拡大?

- ・学校経営の一本化 ⇨ 校長1人、教頭2人、園長1人
- ・英語教育の充実
- ・郷土学習プログラムを確立し、全教科・領域へ
- ・12年間をつなぐ教育課程の構築
- ・幼小中の合同学校行事 そして 合同職員会議の開催へ

○ゴールは 校種を超えた協働、教育力の向上、授業改善

子どもにとって、楽しく、意欲が湧く学校

- ・教育改革への対応(アクティブラーニング、「特別の教科 道徳」、…)
- ・若手教員の育成 など